

平成 27 年度 第 2 回武蔵野市環境市民会議 記録

日時 平成 27 年 8 月 25 日 (木) 18 時 30 分開会 19 時 45 分閉会

場所 武蔵野市役所 812 会議室

出席者 委員 10 名、事務局 6 名、コンサルタント 1 名

(委員：田畑委員長、大江副委員長、岡部委員、大作委員、力元委員、小玉委員、田崎委員、西上原委員、羽島委員、村越委員)

- 内容
1. 武蔵野市環境基本計画中間まとめへの意見（パブリックコメント）について
 2. 計画本編の編集方針
 3. 今後のスケジュールについて

1. 武蔵野市環境基本計画中間まとめへの意見（パブリックコメント）について

発言者	要旨
委員長	(委員長挨拶)
事務局	(資料の説明、資料 1「中間まとめへの意見について」、資料 2「本編編集方針」、資料 3「今後のスケジュールについて」)
委員	私の意見は、パブリックコメントとして提出した。
委員長	一般市民には難しい用語があるため、用語説明が必要である。資料編に掲載される予定だが、その内容も委員に示されたい。
委員	第 2 章. 1「計画の目的・位置づけ」の追記はどのような内容になるのか。
事務局	第三期計画には市域の二酸化炭素排出削減目標の記載があった。同内容について、第四期では別計画（地球温暖化対策区域施策編）への記載となるため、両計画に関係性があることを示す内容である。
委員	第 4 章環境方針 1 や第 2 章. 4 市民・事業者・行政（市の）の役割分。三者のパートナーシップについて、例えば「地域フォーラム」のような具体的なイメージがあるとよい。
事務局	環境方針 1 の中で、環境分野の切り口から、より具体性のある書き方を検討する。
副委員長	数値目標を示さないこととなったが、進捗の評価はどのように行うのか。進捗管理のスタイルが変わるならば、新しい方法について計画に示したらどうか。
事務局	各種事業については、第 4 章「施策の体系」において事業を記載し、体系づけを行う。その上で、計画の体系づけに合わせた年次報告書「武蔵野市の環境保全」に進捗を公表し PDCA を行っていく。また、各個別計画においても進捗管理を行う。
副委員長	年次報告書は多くの細かい内容に分かれており、把握しづらい。5 年スパンの計画において中・長期的な視点での評価をすることは困難であり、代替とはなりえないのではないか。
事務局	長期計画（市全体のマスタープラン的位置付）でも数値目標は出さず、個別計画（実行計画）で事業計画目標を示している。 第 3 期環境基本計画ではマスタープランと実行計画の両方の位置づけが混在しており、わかりにくいとの意見もあった。そのため、今回は長計と同様に環境分野のマスタープランの位置づけとし、数値目標は示さず、個別計画で対応するとした経緯がある。
副委員長	確かにこれまでの限定された数値目標のみで進捗評価を決めてしまうような形は疑

	問であったが、数値目標を記載しないにしても、替わりになる5年間の進捗評価について、数値でなくともよいのでどこかに示すべきではないか。
事務局	記載を検討する。
委員	第3章. 4「市民意識について」。市民意識調査の全体的な結果を見た上での今一步進んだ分析・考察があるとよい。
事務局	p17の記載は、前回との比較の形で客観的な状況を示したものであるが、書き方を検討する。
委員	中間まとめ、余白が多く環境の計画であるのにも関わらず、無駄が多いイメージがある。余白部分をうまく活用してほしい。
委員	追加される資料編についても、見やすく、わかりやすくまとめてほしい。
事務局	本編では全体的な体裁もきちんと整えたい。 全体のページ数は、資料等を含めて今の倍程度の想定である。
副委員長	環境方針2「施策の展開(2)・(3)」に関連して、武蔵野市のような既成市街地では住宅や建物のエネルギー対策の影響が大きいと思われる。例えば建替時の新しい省エネ対策の情報等をトピックスや資料編に記載することも可能か。 またp23の現況データで公共施設に関するデータはあるが、民間側の情報もあるとよい。
事務局	記載を検討する。
委員長	40年前の建物と今の建物で、エネルギー使用量や熱効率が随分と違うと思われる。そういった情報もよいかもしれない。
委員	環境方針3.(2)について。武蔵野市のごみの量は減っているが、まだ多摩地区の中では劣っている。その理由は説明できないか。例えば昼夜間の人口の差が原因であるなど。
事務局	一般廃棄物の計画でも分析を行っているが、要因が複雑で特定できないこともあり、本計画ではこの程度の記載にならざるを得ない。
副委員長	小金井市や調布市などでは、有料化などのごみ減量をもっと熱心に取り組んでおり、成果のかわりに市民の苦労も相当なものとなっている。武蔵野市も頑張っているが、商業地区が大きいといった都市特性からか、小規模事業所のごみが家庭ごみと混ざることであって、なかなか減らないようである。
委員長	環境分野のマスタープランということで扱う対象は広いが、何もかも全てということでもなく、武蔵野市らしい環境基本計画とはという骨格をしっかりと意識してまとめてほしい。
副委員長	1番目のパブリックコメントにあるように、エネルギー消費の見える化がさらに進むとよいと思う。
委員	p29のトピックス部分。朝一番隊の清掃活動では、以前と比べ、ごみはかなり減ってきており、街も明らかにきれいになっている。たばこのポイ捨ても減った。10年前から同活動等におけるごみの量がどの程度変わったか、数字で示せると環境啓発の面でも有効ではないか。
事務局	記載を検討する。